

槐下餘聞

七

和書門			
一	五	八	四
冊	架	函	號

內閣文庫			
天	五	八	和
六	一	五	書
函	九	四	類
架	冊	號	

內閣文庫		
番號	和	15814
冊數	15(7)	
函號	166	309

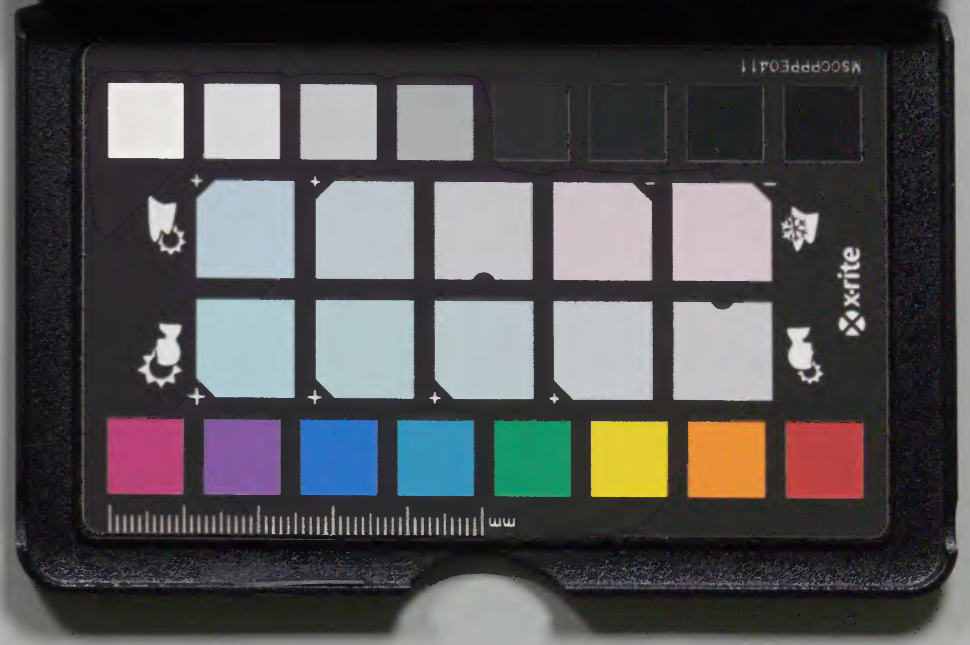


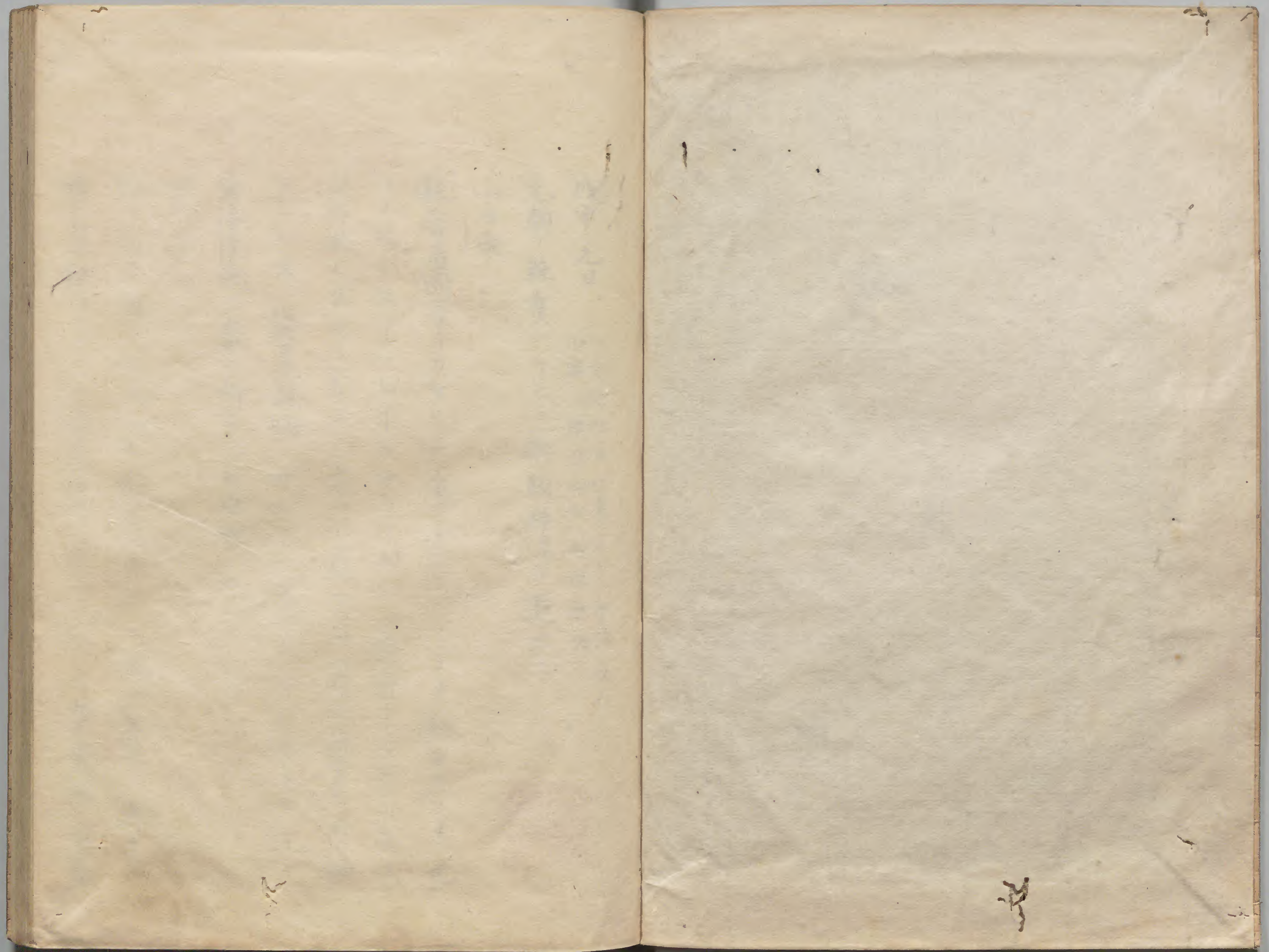
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



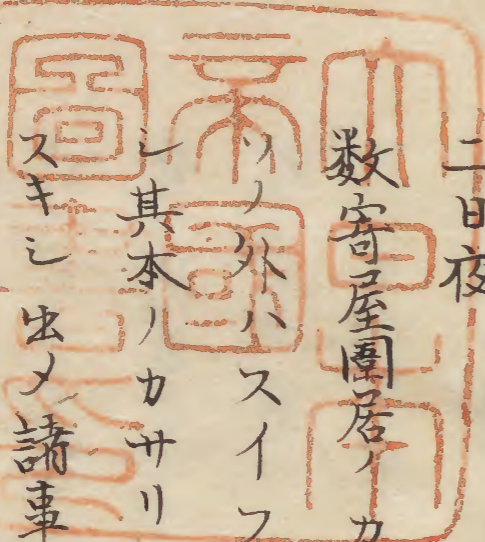


明治十年



戊申元日
旧冬北七日以来日ハ参候夜ハ
御宿ス律君御方御疮瘡故之
元朝ノ雜煮ナラヒニ
朝飯拜味ノ退出ス

二日夜



数寄屋圍居ノカサリニ釜六常カサリトテ勤カスモノ也
其本ノカサリ出シノ亦一ハ花ヲモトニノ花ヨリノ物
又キシ出メ諸事諸物ノサシアハヌヤウニセヨトノ
常修院殿ノ常ニ仰ラレシ由也

四日夜



物ノ何カ益ニ立一シヒ左マシキヒ云難シ先年ノ大火ノ
時禁裡火上ニテ其後造管コトヲハリテ紫震殿賢聖

繪ノ間ヲ益師ニ仰付ラレシカ奉行ノ方ヨリ人形ノ大
サヲ問ニコシタリ紙ノワヅ書付ノナトコソ委クハア
シ人形ノ大サト云テハ又人形ニモヨルヘキカ併大方ノ
準ハアルヘキト之問ニコシタルモ無理ナラスト思フカ
中ニテフト思ヒ付タルトアリ炎上ノ時今ノ新藏人カ紫震殿ニ
昏テ見事ナルト之ヲ炎上ノ時今ノ新藏人カ紫震殿ニ
走り入テ見レ度ノ仕出スヘキ態モナシ聖賢ノ像ノ
アマリニ見事ナルマ、一枚キリスキテトリカヘリシヲ
錦小路カ勝チロノフスマニ押タルヲ思ヒ出メトリニヤ
リテ送リシカ大ニ悦テ此ヲ口ニシタリト云
ホカサリト云テ昔モメツラシキトニテ常修院殿へ所

心セシカ度ハナサシス只一度其茶ニアヒタリ今ノ
流ニセキモリトヤラシニテニヒリ上リノ口ニツホヲ
ルトアリト云御流儀ニハナキト之床ニキハメテカサラ
レタリ客入テ常ノ如ク拜見メ亭主出テハ御壺ヲカサ
ラレタリ先以テ御口切ト云ヘテ別メ忝シ連ノ儀ニ緒ツ
カリヲハスメ見セラレヨト云霞ノアルモ緒ツカリノア
ルモアミノアルモアリウレクノアシラヒ之鼻紙ヲシキ
テ底迄ヲミテ亭主ヘモトス亭主入テ口ヲ切ク
ハ舞トニヤト窺
ナシト仰ク
六日夜
先日石州ノ茶ニ渡沛ノ時コノ頃二三カ咄ニ去方ヘ茶湯

唐物茶全作物ノクニ
ニ底(キヌテ)ニハサヨ
ホリトシタルモノ、アルハ
トカクニ作(コ)シ本概免
ノ一ニ再(ニ)ラツツカハヌコ
ヘトト仰(ラ)ル

ニ忝リテセイシト申茶入ヲ見タリ織部カ文ノツヒタル
ヲ櫛タリ御存シニヤト伺フ不知ト云シカ覺エズヤト仰
之前ニ見侍リ又存シタル者所持ス 大黒ヤ東 石工門 此ヲカリテ
此夜御目ニ掛ル初テ御覧アリヌト是ヨリ大ニ勢至ノ
茶入セシサクニナリテ鴻池道徳へ問ニツカハサルカモ
名物ノ名目ハアリテ古今コレナキモノ之勢至ト云名ハ
仏經ヨリ出タル名也ト申上シカ此頂應山ノ遊シタル茶
ノ書ニモ勢至ト云名物ノ銘ハカリテ世ニナキモノトア
リ 以前道徳カ申セシハ唐物ニ十ハ色ノ申ニテモ尊ノキ
瓶ノト云モノハ真ノ唐物ニアラス鴻物ナリト申セシ
カイカサマニモ真ノ唐物ニテナキ処アリ
ユクク見シルヘキ申ニテ御ミセナサレ
今日ヨリ知君御方御疱瘡ニテ廿一日迄平話ス

廿一日夜 房君御方御熱ニテ参ス

先日七日ノ午例年ノ如ク御茶湯初ニテ當年ヨリ始テ丸
馬頭ヲメサル コレマテ宗セト玄察ト一葉ト之玄察死ノ
宗セ一葉ト一葉死ノ宗セ丸馬ト之
宗セト西人也午後丸馬頭忝リテ暫ノ宗セヨリ書状ニテ
持病サシヲコリテ不忝ノ由ヲ申シ上クルマ、石見守ヲ
加ラル加様ノ時コフ一亭ノ場ト思シカ尼丸馬モ若ト
リ也ソノ上主客主従ニテハ丸馬モ迷惑スヘキカト思ヒ
テ思ヒトマリヌト仰ラルニイカサマモカイテ一客ヲシテ見
ヤウナ場ニテアルヘキモノ之
一葉存生ナラハ遊ハスヘキカ
二月三日 保君御方御大病御本回後初テ御灸 天樞 中晚 二付
常陸ノ局御膳上ラル 等詮 参候

茶入ノ底ハヨクニ能ハテモ末茶ノコリテアルモノ也
何心ナク入ル、ト新茶ノ中ニ香クサキ香アリテジダラ
クニ見ユルモノ也此底ノ茶ヲトリヤウアリ常修院殿ヨ
リノ傳授也ヒキ茶ノ葉ヲ入テウナニテ粉ニメハラヘテ
抹茶ヨク出ルモノ也ト仰ラレ

四日 参候

梅ヲ好文ト云フハ何フニテ見當リスルヤ先年モセン
キシタルナナルカ又此度モ淵翰類函ニテ見シカハ梅ノ
下ニナシアレニナキカラハ何ニモナキ岩ノ好文ノ二字
唐人ノ筆カニアラス好學トハ云ヘシ好文トハ云ヘカラ
イカ、思フニヤト仰ラレ

後水尾院ハ立花ニ於テ甚カンノウアル御夏也禁中ノ大
立華ト云フハ此御世ニコソアリケレ主上ヲ始メ奉リ
諸御諸家トモ其ノニ堪能アル人ヲ擇ハシテ紫宸殿ヨリ
庭上南門マテ双方ニカリヤラウチテ出家町人ニカキラ
ス其ノニ秀タル者ハ皆立華サセテ双ラシタリ秀吉ノ大
茶湯後ノ一壯觀ナリ専光カ櫻ノ一色ト云フハ此時ヨ
リソ始マリケル投入ト立華トハ心持モ各別ナルヘキ
ナナカラ立華ノ意ヲ知ラスメハ投入ハナルマシキトク
ト申上クイカニモ立華ハ州本ノ道理ヲツメタルモノ
ナシハ立華ノ意ヲ知テ投入ヲセバ好カラレカ立華ノヤ
ウニ投入ヲ為ヘカラス

立華ハヨモシロキ物ニテフトコロニヌキ出テハ外ノ
一ハ耳ニモ目ニモ不入シテ昼夜コノ一ヲ思入ルモノ
也後水尾院ノ御傳授ヲ兼テ堪能ナリシハ獅子吼院殿ナ
リシカ或時後水尾院ノ獅子吼院へ立華モヨキホトカ好
咲カ齒ノアシクナリシハ立華ユヘナリト仰ラシシカハ
獅子吼院ノリツク御災ナリテ側ナル方へアノ御齒ノ
脱タルハ歌ニテアシクナリタル也立華ノ咎ニテハナシ
ト仰ラシシカ御耳ハ遠カリシ故主上ノ御耳ニハ入ラス
イトヨカシカリシト也ト仰ラル

八日 参候

忠日中島某カ御本殿ヨリ拜領ノ御肴ノ廣ノヲ致

セシカ控父子是ニ門人心易キ朋友ナトヲ呼侍リシカ凡
テ拜領ノ肴ナト廣ノシニハ致シヤウアルヘキ一ニ候イカ
、ノ 思召ニヤト窺フ控方ニテモ心易キ者凡ノ申スハ
其御肴一色ヲ指身ニモ汁ニモ焼物ニモ致サハ好カラニ
カト申ス控カ存シ寄ニハ加様ノ処コソ鉢飯ノ場ニテア
ルヘシト存ス膳ニ指身ヲ付テ飯挽ヲフセ鉢ヲ跡ヨリ持
出テ、控抄セハ自ラ拜領ノ辱キヲ述ルニナルヘキカト
申上ク 仰ニ尤也朋友凡カ申スハ世間通例ナリ其方カ
了簡モ困居ナトニテハ一段然ルヘカラシカ書院ニテ最
前ノ如ク人ノ六七人凡アラハ膳ハ精進ノ仕立ニテ鯛ハ
何枚ニテモ九ナカラ濱焼ニモ亭主初メテ礼服ニテ此ヲ


威こコツ本意ナラメ拜領ノ物ニ疵ヲ付テハ詮ナシト

仰ラレ

十一日 御茶 上田養安

待合ナシ 山坐ニツ

御掛物 隠月江ノ詩并喝 奥ニ年号月日九十五歳ト有

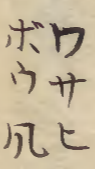
御釜 松平伯耆守カ名物ノヲトゴセノ写シ 

御香合 カキノ子 朱ノ丸キ 弟ノカナガイアリ甲ニ青貝ノ人形ナトアリ

フクヘニテ 御炭アリ

御會席 市膳モシヲクリ色ニシフチヲ青漆ニメ丸シ 椀イトノ中クロ外クリイロ

汁 シラカ牛房 ヨノナ スマシ タレミツカ

血 イキンチンチノ カキ 鯛ヲ作り身ニメイリ酒  ボウサヒ

御香物鉢 ナラツケ ナスヒ 南京ノ一文字ノ丸キ

御平皿 ックくしニハシ

御吸物 味噌 ハヘカシラヲウチテ

小皿 タラノ子 花カッホ

御菓子 昔ト白トノ 團子ヲ至極小ニシライト 此キサトウ 栗 盆フチアツノ丸

中立

待合 煙盃ハカリ 手桶 柄杓

御花生 宗和ノ二重 カスカイアリ 宗和ヨリノ文アリ

御花 コフシノ一色ハカリ

御水指 備有ノコゲトニ重クスリ 至極ノ由 スリブタ



御茶入 ア子キ ア子キニハニ重クスリ ハナキモマリ 由ナルニヨキ付ニナダシアリ カナケドマリ

一文字白地、イ一金
中紫地、蓮花、右
キニラニ上下トニス

ニテ全クカスニカワノヤウニテ肩ニ黒クスリアリ



袋

白地ノ花ツルノ古キニラニウラ茶ノアラキカイキ紫ノワカリ

茶入水指ヨリ一目アケテ横ハ大カタニ目モアキテアルヘキカ

御茶抄

細川三斎

御茶椀

アタラシキカラツハニスノゴキノヤウニ

後ノ炭

常ノ如クアツハス

御書院ノ床

趙昌ノユリノ繪

一文字紫地ノ印金
中小紋トリス上下金入

香地ノ香炉

香鬼ノ作リモノノ午ニ臺ヲ持タル上ニカサラル

奥ノ床

探幽ノ山水

柱ニ高麗ノ焼物ノ花入ツゲル

御菓子

スイシカン
白マニチウ

御夜食アリ亥ノ刻退出

十二日 参候

昨日ノ御礼申し上ク

鉦ハ四ツト兼リハ音ハイカ
聞

タルヤラシ惣ノ鉦ヲウツテ初ノ一ツハ大キニ其響ノ止

マテマチテ小クウチ又響ノ止ヲ待タズメ次ヲウチ又響

ノ止ヲ待テ大ニウツヘシ常間ニワロフハアヒト仰ラ

ル

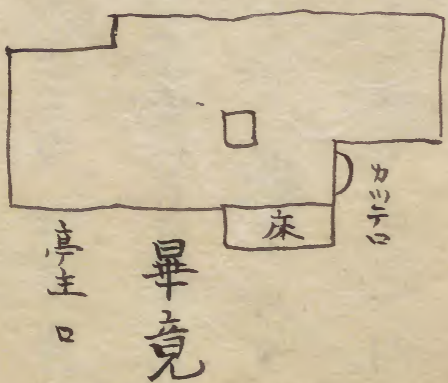
同夜 参候 左大将様御成

常修院様御囲居ノ圖ヲ出シ御見セナサル

四畳ニ大目ノ畳アルモノ也アツ紙ニテ

アヒ紋アリテ屋ハナシニ立ラルヤウニシタモノ也
コ

シハ中井常格ニ云付テサセテモライタリト仰ラレ御流



儀ノトハ申ナカラ如此クハシキトアルヘカラス其次
午ニ此窓ノ中ニ常修院殿ノワヌシヨシト云トアリ毎
同シヤウニ四角ニノミスルトハ堅キトテトシ窓ノ中
ニテ一所ハ一方ニ二本ノヨシヲ一方ニテ一本ニメ下カ
上カヘクリテヘゴシタルヤウニアコシタリ誤テワス
シタル心之何某カ常修院殿ノ窓ニハワスシヨシト云
アリト心得テ窓コトニコシヲ仕タリト申ス大ニ御本意
ニアルヘカラスソシハ忘シヨシニハアラス覺ヘヨシナリ
トテ大笑ナサル

十四日 叅候

先日有鄰軒ノ茶ニ彼岸梅ヲ生ラレタリヒトヘハ入ヤウ

ニテ面白キモノナリ幸ニ彼岸サクラアリ生ラミルヘシ
ト仰ラル何トテナルヘキヤト辞シ申シ上ク是非致スヘ
シ誓古トテ此ヲ致ス子ジメニハ何カ然ルヘカラシト
申シ上ク惣メカヤウナモノハ子ジメナキカヨシ一色ニ
テ立ルニ身木ヲ見テ枝ヲトリアハセテ仕ヘシト仰ラル
因テ覺悟ス先日ノ所茶ニコブシヲ生ラシモ一色ナリ
身木ヲ見ルモノハ枝ニラアシラフト所志ナルトニアタ
マカラ枝ノモノハ子ジ
メニテアシラフヘキカ

扱カ茶所ハ道具疊ニ床カツキテアリ楓花生ナトスルニ
ハ水指茶入トカサリ付テハ道具多ニテイナモノナルヘ
シ此時コソハコビニテアルヘキカト申シ上ク在也昔
常修院殿ノ囲居ニ道具多シノ向ニ床ノアル座敷アリ

シカ其処ニテハ何時モハコビニテアリタリマ度モカサ
リツケニテアリシト仰ラレ

廿七日 叅候

二幅對三幅對ノカケヤウノ常間ハイカホト致スニヤト
窺フ 此モ説クアリ昔ハ袋掛ノ釘ト對ノ掛物ノ釘トハ
亭主ノ意ニ也ト云説アリ袋掛ノ釘穴ハイクツモエリ
テアルヲ見テ此亭主名物ヲ爰ツモタルタリト云テ客
ノ知ルト云テアリ長キ袋ハ高クツリ丸キ袋ハ下クツル
袋次オナリ困居ノニツ釘モ同キテ亭主大横物ヲ持
テ掛ント思ハ其掛物ノカルヤウニニツ釘ヲウツテ
オクテト云ニ幅三幅ノ釘ハ掛物ノ表具ヲ除テ紙ノ幅

ヲキテ中ヲ開テ掛ルモノ也自然ト此恰好ヨキモノ也コ
シニハツシテ掛ラスハ其掛物ノ其床ニカ、ラスト云モ
ノ也ト仰ラレ

廿日 八幡御参詣

入江様御同伴

如石 供奉

明六ツ二條ノ船入ヨリ御出船伏見番所ヨリ御乗替狹川
ヨリ御上リ大西坊ニ御入吏ヨリ御コロモ御ケサニテ
神前奉幣三木御戴^直ソノカワラケ^真ニ御懐中道ニテ如石ニ渡サル 御歩
ニテ入江様御同伴船マテ還御 琴堂へ御出ノ時誓ニ琴ヲ

翌日参候ノ御外
ツルハ漢ニテ椒坊ニスル
ハ日本ニテモ琴テノ音ニ峯
ハハヨキモノナリ
房ヲ下サシケル
カ秘藏ノ
也ト仰ラレ

翌日参候ノ節前
 裁極香ト云モノハ後
 京極ノ作カト云々
 庭ノウツリカウ唐
 門ナトノ一マテ
 春タルモノ昔松平
 加賀守ヨリモカ
 ラレテ実記ニカ
 カイナクハ外頭ト
 カク春ヲヒテク
 マレマカフヘクモ
 京極代書ニテ
 卷ニ美アリ和記
 ニカレシカク又
 テ證トシテ又
 云モノト仰

道中ニテ遙ニ東寺ヲ見ヤリテ俗説ニ一條ノ辻ト東寺ノ
 クリントハ同シ高サナルトヲ申ス尤モアルヘキトニヤ
 土地ノ高下ハイサシラスト申シ上クワレハ前裁秘香ノ
 中ニアルトノイカニモ東寺ノクリント一條ノ橋ト同
 シ高サナルトアリ是ハ洛陽ノ水モリニ舟テノセニ加ク
 ナリ下ニテ何ホト水ヲ激スハ上ニテ何程ト云ツモリ
 ニ書ししトノ俗説ニアラスト仰ラレ
 廿二日 御本殿江當春ノ御節ニ御成 我モ百サシテ
 御離子アリ暮六ツ時還御 参候ス
 小書院御掛物拜見スヘキ由 仰ニテ拜見スタトハハ唐繪
 ノ極彩色ニテ見下之筆ヲ窺フ土佐光重カ娘ノ筆也ノツラ

ニキモノノ光重カ娘ハ狩野 刀妻也

御仕舞離子番組

弓八幡	源下	江口	源下
三輪	源下	芦刈	源下
梅枝	源下	山姥	源下
祝言	源下		

三月五日 参候

昨日御室へ参リテ花ヲ見物致セシニ友梅ト云ヘル先人
 サケ茶箱ヲ持参メ茶ヲ立シカ筒茶碗ノ漆付ニテ侍リシ
 ニ茶ヲ仕廻フ時思寄ノ二三カ余カ袂ヲ引テ筒ノ茶碗ニ
 ハ茶筥ニ極リアリ覺悟セシヤト云 不知ト對シカハ茶筥

ニ節止ト云アリアシハ筒茶碗ノ茶筥ナリト云是ニ付日
外節正ノ茶筥ヲ献上ノ方アリテ御尋アリシ時何ノ為ニ
ヤラント申上シカカナルトヲ申タリト存スイカ、
思召ヤト窺フ是ハ面白キ一也御流儀ニモ終ニナキナ
カラ節止ニテナクテハ叶ハヌト云 上ニモ 仰付ラシテ
今年ノ御茶ニハ遊ハスヘシト思召ト仰ラレ
十九日 下鴨松林院ニ御成 保君御方御同游
亭坊ハ茶人也御茶箱ノ茶ヲ下サシテ立サセテ召上ラレ
ヘシトテ困居ヘ申入ナサル松林院面目特ニ取テノアリ
カタサヨト申シ上リ

床掛物

宗阿弥
東山殿書院カサリノ具

釣船

紫花ノ
シヤカ

水指

古備前



茶碗

上新焼高廉

次赤ノイラボ

香合

象牙唐物

茶抄

徳善院玄以

雨ニヨリテ未ノ刻過還御

廿二日 泰候

田寄ノ二三
抄

兼テ蕎麦ヲ下サルヘキノ間昼ヨリ泰リテ御伽スヘキ由
仰ニヨリテ雨人參候ス

御夕方スミテ表ニテ御茶召上ラレ

書院ノ御掛物舜拳ノ彩色ノ草卷ニ唐子ノ繪ト此ニ付テ
舜拳ナトハ名筆ニテ正筆ハ甚タ稀ナルモノト是ナト正
筆ノ中ニテモ 別ノ之 此ニ付テ唐人ノ名筆ノ後世ノ及フ
トコロニ非サル 処ヲ見ルヘシ此葵ノ卷ヲミヨ皆見フ

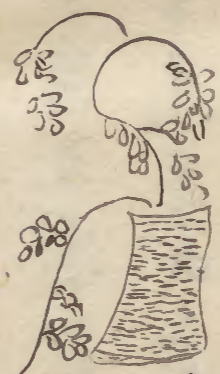
西宮ニテアイトル
ハ巻カクテアヒ、

奥ノ御茶 尚信
カ金ノ花生座サ
クテ



ニハ昼カズ花ニヨリテ昨日咲タル巻モアリ一昨日ノ巻
ノ見所ナキモアリ又今日ヲ盛リナルモアリ 加様ノ処中
々後世ノ及フ処ニ非スト 仰ラレ 何モト申ス中ニ葵ナト
一度ニハサカスモノトシホシタル 別ノ本ヨリサキ出テ
モサカリナルモマナクアル者之

御坐ノ間ノ床ニ白藤ヲ生ラル薩廣菟ノ御花生也



又翌日ノ仰ニ此後ナトノ下リタル枝ニ
リキミアルハワロニ上ニカヘリノ枝アリ
テハ下ハヌホリトシタルヨニ返リノ枝
ナクハ下ニテサカリタルモヨシ

御田ノ昭宗味ノ棚アリ御茶入一ツカサリ

御釜イワケクハニノアラレ富士釜と

御自取御濃茶召上ラレテ後 於ニ濃茶ヲ立テ、二三ト

西人拜味スヘキ由ニテ於立ツ次ニ二三臺天目ニテ盆立

ラノ御目ニカク 兼テ 御前ニ蒸リシニ少ツノカハリ
アシ氏大様カハルナニ奇特ト云ツヘシ

二三カ咄ニ二色ノ茶ヲ立ルニハ客ニ習アリ亭主一服立

シマフトキ客ヨリ令一服御茶カミユル夕マハルヘシ然

ラハ白湯ヲ出サレヨトテ所望ノタフルニ服ノ茶ニ混ソ

夕アヘキ様ナシト申ス 御前ノ仰ニ是茶道ノ習ク大切

ノ下ニ茶通ノ時ノ茶入ノ立様モ初ノ茶ヲ仕廻トキ茶入

ヲ立テ上客ノワキニ置又ノ下ノ茶ヲシマフトキ又東ヲ

立相モ立テ見ル下ト申ス 御前ノ御説ニハ初ノ茶ノ

時ニハ不立メ後ノ茶ヲ所望シ白湯ヲ飲ノ間 初ノ茶入

ノ仕廻ヤウアリテ仕廻後ノ茶ヲ仕廻テ箱ニ入ル、時ニ

茶入箱袋ニ所望ス亭主茶入ヲハダカニ箱ニ収ム収

メナカラ箱氏ニ出ス袋ハ箱ノ蓋ヲ仰ケテノセアトヨリ
出ス上客ヨリ段ニ見テ廻シ最前ノ如ク蓋ノ上ニ袋ヲ
ノセテ箱ノ上ニ仰ケラノセ及ス此汝法作イノ必ク漫ニ茶通
ノ茶ナトスヘカラス 上ニハ終ニ遊ハサス常修院様ニ
テ御茶ニアハセラヒト之 益々臺天目モ 後西院
御前ニテアリヒニ御アイナサシ由之
臺ノ上ニ天目アリウツフセテ茶抄ヲカケラル 御前 御説ニハ
臺ノ上ニ茶抄ヲアラノケテカケラル 二三ハ臺ニワク
サヲ添テ出ス 御前ノ御説ニハ臺アル時ハラクサナシ
如様ノ類ク

昔ノ茶湯ニハ墨跡ハカリニテ歌ノ物ヲ掛タルハ利休

カ時分ニ或茶人カ利休ヲ請招シテ行カシシカ中ク、リ
ヲ閑クシハ艸茫トトメ亀石モミヘカ夕キホトト 如何ナ
ルワケニヤト推メ漸クニ艸カキ分テ入ラシシカ鉢前ハ
イトキシイニ掃除メアリケル故イカニモ分ハアリケリ
ト中ニ入テ床ヲ見ラシタシハ其家ノ重代ニ定家ノ小色
紙ヲ所持シタリシカ 此色紙カ八重モクウノ歌ニシカハ
利休モ尤ナリトテ感シタリシカ 此歌ノカケモク 掛初
也ト申ス 御前ノ御説ハ利休カ太閤秀吉ヲ招請ノ初テ
定家ノ小色紙ヲ掛タリ其歌ハ天原フリナキミシハノ歌
之秀吉ノ不審ナリシニ利休カ返答ニ此歌ハ日本人カ唐
ニテ讀テ日トツニテ世界国土ヲ兼テ讀尽シタル歌ナ

レハ大 灯 虚堂ニモオトルヘカラスト申之上ヨリ歌
ノモノ掛タルト御聞ナサレシ由仰之

廿四日 進藤左典厩へ御成 左大将様御同遊 控

午前赤候ノ処今日俄ニ左大将ニ参内ニテ退出次第御成
アルヘシ立坊ノ御役ノ御内意ト見ヘタリト仰ラレ後

左大将様御成ノ節兼ル 一條様ヲ東宮傳ニ鷹司様ヲ春
宮ノ太輔ニ東園日野西小守士ニ仰出サレ由之 日野西

ハ普通ノ人品ニアラサル由仰之

午半御成

掛物 信尹公所歌 信尹公ハ三昧院様也

釜 小阿弥陀 凡戸

御會席

汁 ウスフクサ 独活 フツキリ

煮物 フキ 梅首 雑 香物 ナスヒ

焼物 一盞ノ鯛 本地ノヘキニ拍ノ葉ヲ布水ウチ

へギ 梅ガハ 柚ヘシ 雞ナマス子ツキ コレハ 大将様ヨリ并領ノヨシ

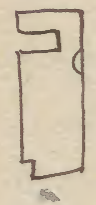
猪口 御菓子 色ナマキ 南京赤舎ノ角鉢ニ入 朱瑠璃
アル猪口ニ 白サトウ サハリ 匙 竹ノ著

香合 フノツケ 菜籠

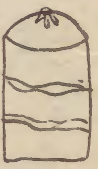
御中立

花生 市作

花 エヒ子 葉三枚 花二本



水指 備ち



昔ミカナニテ コゲアリ

茶入 利休

茶入ノ底ニケテ判アリ

袋 花ウサキ
カイキウラ

茶抄 女庵

書院

床 花鳥二幅對

藝阿弥

前ニ宗和形

中央ノ朱ノ卓
杏ノ付銀

、ホヤアリ

次ノ間

唐物籠ノ花生ニ紫白ノ杜若

三本
兼四五本

次ノ床

主馬カ竹ニ雞

四方釜

円爪炉 丸棚

水指

シガラキ
ヌリワタ

申ノ半刻 還御

四月三日 御茶

深諦院殿

抄

午下刻

恭候

今日 初ノテ新團居ニテ御茶
口式 常修院様御形アリ

別記

御待合

撮

田坐ハカリ

御掛物

為家ヨリ定家ニ女院ニテ除目行ハレシ人ニノ
唇付 定家ヨリノ返夏ヨ唇込ニメ一十 奥ニ暗
ゆく月のうけハカクシと漆器人のさすりふ
トアリ 一文字 坐地宝ウリシ、右金ラシ
安尔庵トミニ 上下シケ 中白地

御釜

ヒラクモ 是ハ去年津輕越中守殿ヨリ
准后宣下ノ所祝義ニ軟上各物ノ由ニ紹鳩所持ノ
釜ニテ大ヒラクモ小ヒラクモ下 赫メニツ天下ノ
名物之 大ヒラクモハ 二アリ小ヒラク
モヲ津輕ニ所持ニテ重物タリト釜此度ノ所祝義
ニ軟上ノ由ニ 凡仲ハ此釜ニアハセテ 勢仰付
ハ釜ヲ掛ラリ、カラハスキ木ニテアル
ヘキモノヲカスヘラレタリ 釜ノ
端ガシクシテスキ木ニテハ
拾好アシキ故ト作ラル

棚

香合



羽帚

三枚羽 三ヶ一
膳手ノ方ヘヨセ


香合ハ

准朱ノケボ

御會席

御汁 小菜 蓋ノ上ニ番椒 盃付守) 煮物 ス、ナ 葉付 二切 梅首 煎 二切

御香物 御持泰 市舎 煎ニ麦飯ハキウイニヤト 仰ラレ 何モ好物ノ由申シ上ク

サハリ飯次子付  麦飯 蓋ナシ

湯ノ汁 冷汁ノ臭モリ合セ ハリグリ 花カツボ

朝鮮焼ノ子付汁次 冷汁

湯ノ煮物 味曾カケ

御酒

四 冷汁ノ臭不残クニ合セ 點ノツケヤキニ疋

御吸物 ウスイツケ 蕁菜

菜籠 底四角 口丸ノクミモノ

御菓子 アコモナ 香ハタノ粉カケ

御菓子入 金瑛瑯有蓋把碗 ヲラニタノ焼物之先年薩 州ヨリ 献上ニ 関白様ノ進

セラル 御物スキニテ 臺 仰付ラレ 普通ニナキモノ之



形如此コシニ 作付ラシ



中立

侍合 烟草盆 田坐 鉦ニテ 御案内

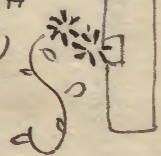
御巻生 細川三浦ノ作ニ重筒 下ノ重

御水指 凡クルマウス索一リニ白一リニ 茶入ハ長 水指ノ

御茶入 御取合奉感 ルイガノ春慶 袋 遠州廣東

御茶枚 瀬田掃部

御茶碗 朝鮮ノ角茶碗 青繪アリ アニナレニ能似タリ



表御床

鎌倉ノ啓書記カ猿猴ノ水月ヲ取ノ分

御花生

カラカ子

御卷

杜若紫白三リン

奥御床

探幽カ吉野立田ノ二幅對

置物

砂ノ物ノ鉢

ニヒキク
砂イレ

石茸ヲノセラル

此夜ノ御咄ニ昔シ鳥丸ノ光廣ノ毎ノ御會ニ若キ才子
歟ニ今日ノ御會ノ御歌ハ何ト云頻ナルカ何ト出来シヤ
紫シラリヤト尋ラリニ何モ紫シ侍フト申サル何ト
心得テ紫シラリワト問ハレテ唯何トハナク好趣ヲ讀出
サレト存ルニト申サル夫ヲ後日ニ若キ才子歟ヘソ誠ニ
瓦ソ席ニ臨テ歌ヲ紫スルニ唯バツト人ヨリハ好歌ヲ讀
クキトハカリ思フテ紫スル外ニテハ千年紫シテモ名歌

ハ出ツマジ瓦ソ席ニ臨テ頻ヲ得タラハ先此頻ヲ我カニ

及フヘキカ及マシキカト云フアタマニヨク覺悟ノ速

モ我カニ過タリト思フ頻ハヨマスカヨシ又此頻ニテハ

我カホトニハ讀ルヘシト思フ頻ヲ得テ先此頻ニテハ

何ヲ主トシテ讀ヘキツト其ヲ得タラハ其一ツヲ工夫シツ

メテ讀スヘシ左ナケレハ好歌ハ出マスト申サレタリト云

ナルトト仰ラレ医ノ病ヲ治スルモ亦如此病人ヲ見テ

トテモ昔カニ及マシキト思フナラハ

治セスカヨシイテ治スヘキト思フ其治スヘキ筋ヲ得

テハ治スヘシトモ思フテトコヲツカマヘテ

治スヘシトモ思フニ思ハス是常ト云

又光廣ノ才子歟ヲヨセテ通り題ニテ何首モ見ラレテ寂

早是マテナリヤト問ハレ御目ニカケニト存スルハ是マテ

之マ夕何首モヨミヲキタレテ御目ニカクルホトノ歌ニ
非スト申サルレハ其何レモノヨリクスカ見タレ思ヒノ
外ニ好歌モアルヘシト申サレタリ歌ニカキラス諸藝尼
ニ我目ノツケ処カワロキト讀マセタリト思フホトノ
一皆ワロシ吾ハ何レ思ハスニ人ノ目ニ作者ヨリ其心ヲ
シラスメアタル一アリ本ノ一ニテハナケレ目ノツケ
処カワロケレハカラ入ルホト悪キ方ニ身カ入ユヘニ
大ニ然ルヘカラスト仰ラレ

十三日 泰候

十一日ニハ閑院ノ宮ト攝司内府ト八條トヲ招テ御亭ニテ
御馳走ノ折カラ八條ノ詩ヲ作ラレトセラレシ程ニ此亭

ニテ詩ノ法度ナリ今日ハユルス之重テハ無用タルベシ
ト云テ大笑セシカ若キ人ニハ奇特セト仰ラレ

陪 彈正親王上 准后藤公之物外樓

緑樹重陰属麦秋幸陪瓊宴上高楼可隣山水無窮景却想王
休物外遊

御唱和

背^キ花眠月經幾秋幸得佳賓共上樓老懶何成文字飲望山臨
永欠詩遊

コレニテ童子テ作ラレヌヤウニセシト仰レ

十五日 入江様御成 夕御伽ニ泰候 錦小路 找

七観音ノ靈室ノ中ニ弘法ノ筆跡ヲ御覧ニ入ルマカイナ

キ物也ト仰ラル弘法ノ筆東寺ニホド多キ一ハナクテ
皆ク餘ナキモノ之先年若キ御時ニ朝七ツ時ヨリ毎日御
成アリテ明六ツヨリ暮六ツマテツ十二日カ間ニ不残
ウツシトル平等院ノ檜ニアル色紙形ノ九品ノ要文ヲモ
アシ、口ヲサセテ六日カ程ニウツシトリタリ好キ一
シシタリ東寺ノ空海ノ筆跡モツノ時夕ニ地ハコトノ外
ニヤツレテ見エヌ処多カリキ今ハ定ノテユモセマシ
平等院ノ色紙形モ近代ノ住侶ニケシカラヌ男出テ不
残彩色ノ要文モ思フマニ認タリ昔ノ筆跡ハナクナリ
タリ名高キ古仏モ皆金ヲ新シクオケリ如何ナル狼籍
ノ仕形ニヤ昔ノ筆跡ハ此方ニ残シリト仰ラル

錦小路カ申シ上ラル、ハ近代ノ佛閣ノ開帳ニ出セシ靈
宝凡其數カキリナシト金正跡タルハ疎ナリ御家ニアル
物凡ヲ出サハ物ヒトツニテモ目ヲ驚カス一多カラシト
申上シカハ如何様ニモ此方ニアル御重物ノ中ニテモ入
ノ嬉シカラスモノモアルヘシ空也ノカタカナノ名号ヤ
空海入唐ノ時アナタヨリノ各箇金胎西部ノ曼多羅ニ
幅ナラヒニ翻譯ノ經卷二百余卷ヲ書写セリコレハ國家
鎮護ノ重物タシハ遣唐使ニ附メ上スノ由ヲ書シタル書
簡アリ希代ノ名物也トコク

十九日 茶候

壁附ニ茶入ヲカサル一今ノ世ニテハ汎炉ノ茶ニハ毎

スル下之汝カ流ニハ何ト聞居ニヤト御尋アリ私ニ兼リ
シハ常陸帯ナラテハセストト兼リシト申シ上ク是モ一
理アリ面白キ下ニ御流儀ナトニテハ大海内海ナトハ
究メテカベツキニカサル之ヲシナセナレハ大海内海ハ
濃茶入ニテハナシ本薄茶入之薄茶入ヲ本坐ニ饒ルヘキ
様ナシ下ト大ナモノハ水指ノ前ニモ似合スモノ也トス
東ハ薄茶ニカキラス濃茶モ入ル故ニ却テ本坐ノモノ也
ト仰ラル

水指ト茶入トノカサリ付ヲイカ^全聞ニニヤト御尋アリ
^{水指}加様ニ兼シト申シ上ク併水指ト釜トノ間ニ
道具ヲ置下ハ決メコシナキ下之ヲシナセナレハ水指ト

釜トノ間ニハ臺子ニテハ茶中ヲカサル場所也カリニモ
他物ヲ置ヘカラスト仰ラル

廿九日 御茶奉候 御園意^{鳥井道} 於 午羊

御持合 田坐

御掛物 雅經ノ色紙 タトヘハ今ノ色帛ヨリ女之小
フリニ波ニ帆ノ模様ウス、

色之雅經ハ百人一首ノ参儀雅經ノ色帛ハ甚タマレナ
ルモノト定家時代之俊成ノ赤子ニテ飛鳥井ノ先祖ノ
カクマヤフハありてあるクハハキスヨト海^のあり

御表具 一文字白地ノ金^{中ハカラスイ}上下ハ金入ノ
後西院様ヨリ市拜領ノ由仰之御表具

氏後西院ノ
所物スキ

御棚 香合 堆黒 微塵ホリ



三枚羽帚



御釜 汎爐 三目^{日イ}ノ
通り

何角御會釈ノ後羽帚ヲ下サシテ凡炉小板ホハキテ御入

御會席

御汁

仙臺鴨 二切
カフツキノ菜 五ツ六ツ

御皿

鯛 酒漬 卷カウホ

御香物

鉢 南京 南

御引物

カニナメノ大平ノ蓋アルモノニ竹ノ子ノゲニ
ノフ三切大ブキ三本

御吸物

タイラキ
花ユ

御菜籠

三目ノ通リ

御菓子

黄青白ノシライト 随分小クミテ
御菓子入 三目ノ通リ 砂糖入 ムツフトロノ
カワツキヤウサビ

中立

待合

烟草盆ハカリ

御案内

鉦

御花生

常修院様

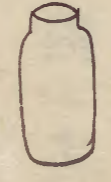


御花

大峯蓮花 二輪
葉五枚ハカリ

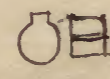
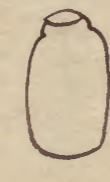
御水指

阿崇院



ヌリフタ

水指ノ前ニ青竹ノ引切 水指ヲハズシテ
茶入ヲカサリ付テ



コボシ

メソウ

御茶入

古瀬戸ノ根スケノ丸ツホ



袋

緋地ノヒトヘツル
宝ツクニ

御茶杓

宗和

御茶碗

甲斐守キ焼

晦日 参候

上野ト三九衛門ハ西国ニテ名アル勇士也其子八良九衛

門ハ故アリテ浪人トナリ獅子吼院殿ニ奉仕ス親常ニ申
シハ勇士ト云ヒツクリトセヌ^トアルヘカラス如何ナ
ル^トヲキテモヒツクリセヌハ知ナキ入ハ各別ツツカ
ニ知アル^トハヒツクリスル咎也イカナル愚夫愚婦ノ類
ニテモ焼傷スシハヒツクリス^{ヤイト}灼灸ヌシハヒツクリセス
コシ覚悟アル故之勇士ト云ヘ^トヒツクリス然レ^ト勇士
ノヒツクリハ^ト下ニテヒツクリス是勇士ノヒツクリ
也ト申シタリト云誠ニ其故アリト仰ラレ

五月三日 深蹄院殿 拙 忝候

ハコヒニメ茶入茶碗ヲ持出ルニハ必ス並テハア^シ茶
碗ハ先へ出し^シノニ高ク茶入ハ内ニ^シ入^レシ^メニ^メ卑

クスル^ト飜リ付ル寸モ先茶碗ヲスエテ茶入ヲ跡ヨリ^ト飜ル

ト也^トトカク客ノ方ノ道具ヲ先ヘカサリ^ト勝午ノ方エカサ

釜ノ環ヲカクルモ勝午ノ方ヨリカケテ客ノ方ヲアトニ

カクル客ヲホサヌ為^ト

凡炉ノ灰ヲスル^ト六ヶ敷ヤウニ云ヘ^ト今時ノ灰ハサマ

テムツカニキヤウニモ見エス灰ノ高下浅深曲直ハ凡炉

ト五徳ト前カハラケトノ間ニヨシハ兼テ定メカク^ト此

ハ常修院殿ノ教工最ナル^トと大秘藏ノ^トと先凡炉ニ

五徳ヲロクニ入テ真中ニ灰ヲイカホトナリ^ト凡入テツシ

ヲ四方ヘカキ出セハ自ラ高下ノ出来ルヲ又別ノ灰ニテ

ツノ高下ノナリニ灰ヲマキテ^トキ^レイニスルハカリ之^ト前

マドフロハカキアゲニ
ノ山ヲセズカノ方モ
ヒツニヲセス一文字ニ
スル尤灰ヲ丸クスル
モアリ 凸スルモア
ルナリ

カワラケモ灰ヲ大方ニ四方又ツキテ好カケニカワラ
ケヲカタメテ凡炉ノ前口ヨリ恰好ヨキヤウニ堅メテ又
前ノ方ノ灰ヲ別ノ灰ニテホトヨキ程ニ直ス一之前ノ灰
ノ出入ハ五徳ノ右ノ方ハ角ヨリ引出シ左ノ方ハ五徳ノ
腋ニナトメル故 コレモ尤勝チナレハ 灰五徳ヨリ奥カラ
引出シテロクニス右ノ方ハ角ヨリ引出ス故ニ自ラトマ
リナキカラ一面ニス前ハワシテ一奇ニナルトカテニス
ヘシ

釜ト水指トノ置合せハ如何覚エタルヤト仰之 壁付ヨ
リ凡炉ハ九目ニス置ヨリ十三目ニ水指ヲ置ト覚エイト
申スソシニテ 恰好ヨキ一モアルヘキカ水指ノ大小長短

ニヨリテ一概ニハ究ノ難カルヘシ 先釜凡炉ハ常坐ヲ
トクト恰好ヨキ様ニキワメテ其壁付ヨリ釜ノツマミノ
真中マデノ寸尺ヲトリテ客付ノ方ノ夕、之ノ縁ヨリ右
ノ寸尺ニアハセテ水指ノ取子ニテモツマミニテモ釜ト
同シヤウニメ横ノ見合ハ釜ノ環ト水指ノツマミト一乘月
ニスヘキ也ト仰ラル 是ニテハイカホト大ナル水指ニテ
モ小水指ニテモ平ニチモ 袖長キニ
テモ各
恰好スト

饒リ付タル茶碗ヲトリテ凡炉ノ前ニ直ス准ノ一女シニ
テモ客付エヨリ過シハ左キツカイニクシ壁付エヨリ過シ
ハ恰好悪シ釜ノ口へ柄杓ヲカケテ其ユカミタル柄杓ノ
柄ヲハワシテ客ノ方エハワシテ置ヘシ

湯ス、キヲ一返スルトモアリニ返スルトモアルハイカ

ニト 深詔院殿 御不審 夫ハ茶碗ニモヨルト茶ノツキヤウニモヨ

ルト一返ニテ茶ヲチズハニ返モス、クヘシ茶サヘヲ

チタ所ハ一返之但大茶碗カ貴人ノ容ナラハニ返モスヘ

シト仰ラル 貴人ノ召上ラヒタル茶碗ニテ又薄茶ヲモ立

テモヨク見ユルモノ故カ 長板ニ風炉ノ一ツカサリト云テアリ今時ノ人ノスルハ

イカ、之凡炉ノ一ツカサリト云テハ銅庫アル坐敷ニカキ

リタルト之銅庫ナケレハスヘキヤウナシ銅庫ノ中ノ水

指ヲイダサズニ茶ヲ立ニト云テ御前ニモ常修院様

ノ銅庫ツキタル坐敷ハアリタシ凡一ツカサリノ茶ニハ

終ニアハセラシスト仰之

柄杓ヲ置ニカサリツケト仕廻サマトニテ仰側俯ノ差別

アリ先饒リツクル寸ハ何時モ俯テ饒ル之茶ヲタテ又

薄茶ニテモ立ルカ假令薄ヲタテモ又追付立ヘキ若シ

時ハ側ニ饒ル之最最早コシニテタテシマフト云寸ハ仰テ

饒ル之縦横斜ハ棚ノ恰好ニヨルト之一概ニ定カタシ

斜ニスル寸ハ柱ニテモカトニテモ間ノアカヌヤウニ三

分五分マテニスヘシ

凡炉ニ向テ坐シ様ハ右ノ足心ヲ尻ニ布テ充、足ヲ横ヘ

出シテ坐スヘシ 庸軒流ノ茶人ノ坐シ 是ニテ凡炉ノヒツ

ト身ノヒツミト相對ノ面ヒツミニテ口クニナル下ト

五徳ノ前ノ兩足ハ口クニテ灰ハヒツム三足ノ先ノ一足
ハ先ユヨリテヒツム釜ハ口クニカクル爪炉ノ左ノ方ハ
女シ出シノニノ亭主ノ右ノ膝ハウシ出シノニヌル
柄杓ヲ握ル手ノヲキ所ハ膝ニモツケズ宗且流ノヤウニ
アケテモ持タズ只肩ヲ落メ臂ヲ助ニツケテ手先ハ膝ニ
ツカヌヤウニ柄杓ノ合ヲ横ニノ持之イハツモ正藏カ茶ヲ
立ハ柄杓ノ合横ニ
今ノヤウニ前ハ此正藏ハ宗
且ノ直方ニ
又リブタノ水指ニ茶巾ヲ置寸ハ必眼縁ニテ子ヨト杖ヲ
ツノ杖ヒヤウ勝手ノ方へ杖ヲへシ今世間ノ流大
方客ノ方へ杖客付へ
塵ヲ憚ル

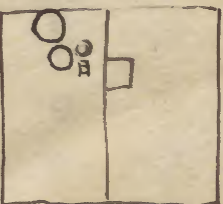
爪炉ノ板ハ大板小板中板丸板木地焼板ホアリ半板ト云

モノハ御流儀ニハナシ丸板ハ勝手ノモノ也表向へハ出
テス大中小ハ風炉ヲ見合大風炉ヲ小板ニノスル寸ハ必
茶巾ハ水指蓋ノ上ニオク小爪炉ナトヲ大中板ニノリタ
ル寸ハ板ノ上ニヲク置処ハ必ス水指ト爪炉トノ間ニ置
へシ是臺子ノ時茶巾ノセノ常坐ナレハ也
爪炉先ノ小屏爪ハ必ス立ルトニアラス壁モナク兩方尺
ニフスマナトノ処ニハ小屏爪ナケレハシマラヌモノ也
又爪炉ヲ前へ引出メ飾シハ尚以テ入ラスニ真ノ爪炉ヲ
真中ニカサリテハ屏風ヲ立ルトアリ是ハ又各別之真ノ
臺子ハ一通リ又各別之
今ノ世間流ノ四疊半ノ坐シヤウト御流儀トハ各別ナリ

四畳半ノ居リヤウハ向フキリト同シヤウニ居之道具ハ

大目ノ飾リトアチラコナラシ

ハ、トヨクキユルハ四畳半



是ニテ柄抄ヲ道具
タ、ミ、中へ入ル
兼テ不審ナルハ
ナリシ

御書院ノ御床ノワキニ二畳敷ノ処アリ何時モ復ハ此処

ニ凡炉ヲ飾ラル深蹄院殿所望ニテ地ニキイヨリ天井ヲチ

六尺五寸但カモイノ下バヨリ上リ廻リフチマテ八寸五

天井板長ヘキ紫竹ノヲサヘフチ六本御勝手口ノフスマ

上半分トトリノコノ白引キヨリ下金ニ菊ノ彩色ノ張付

ニ枚ノモジリ本間之横ノマナカハ御床ニテ残ルマナカ

ニ窓アリ高サ一尺七寸北ノ方上四枚ノ小フスマ下ノ方

四枚ノフスマ中ハ三枚ノチカイ棚之上ノフスマノニキ

中段ニ尺下ノフスマニキイ二尺二寸フスマイワシモ金ニ

棚ヲカサレハ水指ハ何時モ取入シス水切ルレハ水次ニ

テサス之四畳半ナトニ棚ヲカサルハ初坐ヨリカサル水

指ハ入りトモアリ入レヌトモアリ番合羽帯トカサル

トモアリ

茶碗茶入ト飾リ付タル寸ハ中坐ニ居テ先引切柄抄ヲ直

ニ次ニ茶碗茶入ヲカサリツクル遠州流ニハ棚ノ前ニナ

坐ニ居テ

蓋置ノヲキ処ハ必シモ三目ニカキラス蓋ノ大小ニヨリ

テ蓋ノへリへモ板へモカ、ラスホトニ置也

茶碗ト茶入トノ置合ハ間ヲ三目尺四目尺三目半尺去ト

カク茶碗ノ縁ノ目通りカラ見通シ三目半ト合点スヘシ
羊ハ茶碗ノワキ処ト
カニシルス通りト

道具ノアツカイハ凡テ道具ト道具ノ間ニ手ノ入ヲ嫌

フワシ故茶抄ヲ取ルニモ茶碗ニアルヲトルト茶碗ニ置

トノ寸ハ本ヲ持テトリアツカフ中ニテトリアツカフ寸

ハ中節ノ処ニテアツカフト

茶碗ヲ取アツカフハ兎角ニ先ヲアゲメ本ヲサゲメニノ

アツカフカ好シ

中坐ニ茶碗ヲヨリ准ハ釜ニ柄抄ヲ斜ニカケテ其トフリ

ノ通りニヨク之

茶抄ヲフリハ初ハ先ハカリヲフキテ柄ヲフカス後ハ先

ヲフキテ茶ヲハラヒ又本ヲフクカ好コシ故客ニミスル
寸ワカスニ出スニ

テイヤト伺カニト仰ラル初ハ合ヨリ外イラス後ハワ
カイタルモノナシハフキテ仕廻等之

膳ニ水ウツテ今ハ凡カニト仰ラル初ハ合ヨリ外イラス後ハワ
カニト仰ラル初ハ合ヨリ外イラス後ハワ炉トイヘハ必スル常修院殿ノ仰ラ

レシハ既ニ復初ニ水ヲ打テハ極暑ノ寸ニハナスヘキ様

ナシ用於アルヘキトト仰ラル

茶入ノ袋ヲ開クハ初メニ先ノツガリノバシテ次ニ前ノツカリ

ヲノハシ又再先ヲノハシテスクニ石ノ午ニテ茶入ヲトリ

尤ノ午ニモ午ノユレ使ヨケレハ之ト仰ラル前ニ客ノホリ
スト仰ラル

ミ
日
ク

茶抄ヲフクハ直ニフカス女ニ子ニルヤウニノ節ヲ持子

茶入ニカクルト私ニ取ナトノ寸モ如此カ重可窺

茶筥ヲ持ハ初メハ皆軸ヲ持ツヘシ仕廻ノ寸ハ油ヨリス
ヘラヌヤウニメ穂ヲ持ヘシ用ナケレハ也

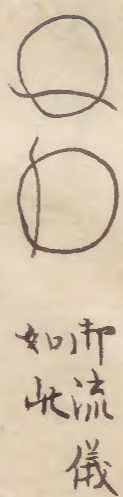
柄杓ヲ釜ノ口ニ置ハ初一度ハ正直ニヲクト云ハ尤ニ非
ス置柄杓切柄杓引柄杓ト云テアリ置柄杓ノ寸ハ釜ノ正
向ニ合ヲ置ヲ斜ニ取テ置柄杓ニアシラヘハ自テ正ニナ
ルニロクニナルハ置柄杓ニガキルト其外ハ時ト先
置柄杓常ノト

茶筥ウチヲスルト初二度ハ茶碗ノ脇ヘヒキ後一度ハ前
エ引テ先ヲミル

茶中ヲ取ハ茶碗ノ湯ニテモ水ニテモコホシエアケテ後
ニ取ヘシ茶中ヲトリテ茶碗ノ水ヲア外シハ右ノ手間ア

リテ容ヲホスカ為コ

濃茶五ノ寸茶抄ヲカケヤウ他流ト全ク異ト他流ハ縦ニ
カクル御流儀ハ横ニ縦ハ茶抄ノ常坐ナトハ也



引柄杓ニシテハ何トメモ合勤キテ音アルハイカニニ
ヤ引柄杓ハニ調子ト云テ音アリ合モ入モノナリト仰
ラル

柄杓ノ柄ヲトルハカリハ正直ニセストカクニ柄上リニ
合サカリニスル是常之釜ノ口ニカケタルヲ取寸ハカリ

ハ柄サカリニ合アカリニ取之本柄杓ノ柄ニヒツエアル
モノ故ニ下ルカ上ルカニ
ラロクニナル初ハ柄ノアカルニチロクニナル釜ヨリヲ
ロスニハ柄ヲサクルニテ又ロクニナル也

釜ニカケタル柄杓ヲトルニハ必柄ノ先ニテヨト指ヲ流
テ取ヘシアツマカウトルハ握ルヤウニテ午付悪手

茶入ニヨリテ服紋ノフキヤウ有之トニ復ヤ 仰ニ別ノ

子細ナシ何時モ正藏カ咄シニ今ノ入茶入ヲフクニキリ

くト何返モ廻スハ宗旦ハセサリシトト申シキ畢竟手

ノ跡ノツキタルヲ扱フ為ナレハ瓢箪ヤ肩衝ヤ九疊ナ

トノ類ハ下ノフクラハカリヲフキテ上ハフカ又カヨシト

仰ラル

四日 叅候

近代ニテ養朴ハ又探幽以後ノ上手也目ノツケ処カチカ

イタルモノト〇〇ナト近代七十ヲ越テ専ラ艸筆ニテア

ラク昏ハ探幽ナト行年カキニナリテアノ格ニテアリシ

ヲ覺テ書ナルヘシ養朴ハ老後ニ至ルホト盡カクハシフ

ナリテ死スル一年前ニカセタル三幅對ナトハ至極ク

ワシキモノ也トテモ探幽ニハ及マシキト思タルカ探幽

ト云ヘ凡老後ノ筆カハ不快ニ思ヒタルカ何ニモセヨ似

セモノニハ非スト仰ラル

永信ハ下手ノ様ニ云ヘ凡尤ニアラス出来物ニナリテハ

及ハサル処アリ是モ探幽カ主馬カ繪ノ筆カヲ見テ連モ

及マシキト思タルカ己カ一家一分ノ凡ヲ書出シテ形ハ

少シモ似ヌモノ也是永信カ器量ノ

六日 叅候

昨日左大将鷹ノ御成ニテ見櫛ニ相模ノ詩ヲ作レヨト申
セシカ如何ヤラント申シキト云ハシシヨリ相模角カナ
ト皆古キ文字ナルカ續日本紀亦毎々コレアリ何ノ世ヨ
リカアル文字ナラト夫カラシテ事物紀原文献通考亦
ヲ考ラレニ相模者今之角カ也トアリスレハ角カハ今
トサセハ相模ノ文字ハ古キナルヘシトテマシクテニ彈
正クルモニ考ラレシカ又アチニテモ心カケラレヨト云
シニ今朝不面思ヒヨリテ鼻ノ先ナル頃カ倭名抄ヲ考サ
リシコフトテ出セシニ相模見テ晋書ト記セリサテコフト
太平御覽ニテ考ミシハ歴々トノ晋書ニ出ヌスレハ古キ
文字也返スルモ頃ト云人ハ只人ニハアラス百人一首ニ

ノリテ歌ハカリ讀タル人ニハ非ストテ彈正トモ感ヒタ
リト仰ラル

七日 叅候

茶扱ヲ持テ茶ヲクムコテノ間ハ仰ケテ持ヤ俯テ持ヤ遠
州流ニハ客ノ方エ皮目ノミユルヤラニ持ヒト申上ク御
流儀ニハ皮目ハ内ヘケツリ目ヲ外ヘスル己ニ茶ヲクミテ
後ハ茶入ノ蓋ヲ持ソエテ持寸ハ全ク仰テ持トシ若シ皮
目ナキ処ニ茶ノ竹タラシヲ慮リテト

束目ノ外フ、キニテモ中次ニテモ甲ハカリヲフキテ取
ハフカヌト何故ト云分ヲシテスト仰ラル

扱ノ下ニハ必釜敷ノ紙ヲシクヘシニ三枚モ童子テ外ニ

見エヌ程ニスヘシカナケレハ塗物ユヘニ凡炉ヲ直ス度
コトニイジル此秘藏ノ下ニ仰テ

釜敷帝ノ寸法今ハ大之御前ハキリテ御寸法ニ合セラ

ル由ニテ則拜領ス紙数并ニアリカク
カニ記ス不詳之兼テヨリテ壓ラ

カケテ置ガヨシ其紙ヲ置ニ今ノ人ハ無トユカメテ置之

必スユガメル下ニ非ス紙ヲ投シタルナリニ自然ニ正直

ニナキ形ヲ本トスル下ニ

凡炉ノセヒツミト云下ハ

凡炉ヲ饒リ様ニニツ

前ニヨスルト
口ヲヒツムト

身ノヒツミ

灰ノヒツミ

釜ノヒツミ

五徳ノヒツミ

柄杓ノヒツミハアツカラス身ノヒツミト相對ノ正

直ナレハ之

柄杓ヲ初度ハ正直ニスト云カニ非ス置柄杓ニスレハ自

然ト直ニナルト云モノ也

雲龍釜ヲ凡炉ニカクルト云下古ハ有之由常修院様ニ

モ御物語ナリ終ニアツバシタル下ハナシ

炭ヲサスト云下アリト云此大凡炉ニ雲竜ナト懸テハス

ヘキ下カ極暑時ナト火ヲ小クメ釜モ少ク炭モ暇ヨリサ

シクヘテ仕廻下アルヘキ下之此時ナト炭ノ入レ物アル

ヘキ下之大ニナキ炭ヲホヲロクナトニ女入テ出ヘキカト

仰テ至極面白キ下之極暑ノ寸炭ノ
間客ヲマクスマイナモノト

スキハニ寸法ハナシ釜ニシタカフ由之常修院殿御頼

申セシカハ釜ヲコセヨ釜ニテ樽ヲ下サレヘキ由ニテモ
ライシト仰レツレハ釜ノ大小ニヨリテ木ノ長短コシア
ルトニヤト窺フ縁ノ廣狹ニヨルト見ヘタリト仰
ラルスキ木シキ木ト申フヤ仰ニスキ木シキ木ト
云是モ今ハ桐ニテスルソウ之古ハ厚朴之下兼テ仰
ラレシ長山公ノ御聞書ニ宗且傳之トアツハス
凡炉ハ正丸ナル物ノ口ニテカケタルモノサレハ前ノ方
丸ニサキカ為ニトカクニ前ヘヨリメニスル然ルニ窓凡
炉ハ大方ニ板ニ正直ニスエ少シハ前ニヨス
御流儀ニハ大板小板中板アリ半板ト云モノハナシカノ
長山公ノ御聞書ニアリ

水指ノ蓋ニ水ウツクハ堅クセヌク之水指ニ水ヲ入ル
モ塗蓋ハ水指ノ水ノツカヌホトニス共蓋ハ水指ノ水ノ
ウラ一ハイニツクホトニスヌリフタトトモフタトア
シライ違トヤ仰ニ不違

眼紗ノアシライ御前ニテ薄
茶ヲ立タルトキ私宅ニテ建ルト他所ニテ所

望ナトニテ建ルトニテ違フ私宅ニテハ必腰ニハサミテ
立ル他所ニテハ腰ニハサマス置置ニヲクナルト之私宅
ニテハ亭主タル者ノ一ツノ佩物之他ニテハ丸ハナキ答
之ト仰ラル

茶入ノ蓋ト束目ノ蓋トノ置処ニ差別アリ束目ノ蓋ハ茶
碗ト人トノ間ニ置ク茶入ノ蓋ハ茶碗ヲハズシテ間ニ置

塗土板ト木地ノ板トハ差別アリ金凡炉ハイツモ木地ト板
ニ置土凡炉ハ又リノ板ニヨク凡炉ノ板ニ丸キアリア
シハ畢竟勝手之 御前ニテヤキ初カ丸板ノ一ハ道億ノ
ニヲカル木地ノ
記ニハ圓ノ角ト云トハアリ四角ノト云トハナキト
タトヘハ丸キ釜ニ四角ノ凡炉カケテ又丸キ板ヲスエ
ハ四角ノ四方釜ニ丸炉ニ角板モ圓角ノ丸キ釜ニ丸キ
凡炉ニ角ノ板ハ四角ニ非スト甲サレタリトカ
額ト云文字ヲ今ノ世ニ文字ヲ書テモ彫テモ着板ノ様ニ
タルモノヲ云ハ本意ニ非ス額ノ賜何ト額ニ何ト云ヲ上
天子ヨリ何ト免メ賜ハルト額ト云今勅額所ト云モ
ノ世上ニ多シ勅筆ノ額ナケシハ絶タルカ滅ニタルカト
思テハヅルハ文章ナルト之昔ハタトヘハ其寺ヘ何ト云
寺号ヲ賜ハルヲ額スト云正シク續日本紀ナトニ賜何号

使道凡書之ノ文アリ勅筆ノ意今ノ世ニ所標ノ額ト云文
字ハ榜之是ニ付テ東寺ニ常額ノ僧ト云モノアリ毎度院
下ト訃アリ常額ノ僧ノ院家ノ僧正ト并フヘキ子細ナシ
ト訃フ御當職ノ節此文ヲ見セラシテ以未クツ氏得不言
古ヘハ正月ヨリ何月マテハコシノ僧ニ此処ニ詰テ此
ヲ行ヘシト勅メ定ラシテ其人数ヲ各付テ高ク揚テ記サ
リ其中ノ僧ニハ大僧正モアヒハ平僧モアリ上ヨリノ
勅裁ニテ定メラル上ハ常額ト云僧ニカキラス右ノ品
ニテ勅裁アル馬ヲ常額ノ馬ト云常額ノ内侍アリ僧ニ限
ルヘカラス東寺ノハ右ヘ其常額ニ撰ハシタル僧ノ寺ヲ
常額ノ僧ト云

十四日夕 赤候

昨日一條右府公東門跡ニ御成ノ様子委細ニ御聞ナサル
又昨日上田養安御茶ヲ上ケシ様子委細ニ仰下サル
凡爐ノ向フ疊ノアキハ如何程ニ仕ルニヤト伺フ
仰ニ免角ニ小板次也取カヘ付ヨリ九目ニ小板アレハ向
ノカベツキヨリ十一目ノカ子ニ小板ヲ直スワキノカベツキヨ
リ十一目ナレハ向ノカベツキヨリ十三目ノ位ニナス二月
ハ疊ノヘリニカクルテアル故ニウチニハ 脇ヨリ
モ向ノ方アキタルヤウニ見エ
廿日 御園意存御茶献上 上田養安 拙御供
午過御成

待合

上御 桐草盃
上御 田坐

縁

次御 桐草盃
次御 田坐ニ枚

掛物

遠州ノ文

一文字

今織

中上下

紙

是夕ハ先日
上田御茶ノ時ヨ

リ思ヒ付テ新ク
表具アリ

下廻出有ヤ一川ノ流々々光也
流々々光也

カ

カ

字

時ニトリテ
面白シ

香合

利休カタノ由未付アリ
口ヌリ甲ニ真鍮ニテ 蠅ト蜘蛛ト青貝ニテ
小虫アリ

御會席

御汁

皿

玉子白細キリ
サケ豆腐湯波

イリ酒

煮物

一夜塩鰯 センバ

吸物


ハキ 生チカラスミ

菓子 串サシ團子水ツケ
ヒイトロニ白砂糖

御中立

花 ヒルカホ 蒼生 凡早故中細言実種
ガツハリ

水指 青地ノヌリフタ 

釜 アラシ 

茶入 性不知 ヤケキレ袋

茶抄 佐渡守

茶碗 先日修岳寺ニテ焼セラレ、ツ由

茶後奥御坐敷ニテ御出アリ

意每エ致飲ノハ徳ヲ今日ノ御引午物ニ下サル

廿二日 赤候

明日ハ岳寄ノ二三ヲ茶ニ招キ、由ヲ申シ上ク蒼ハ下
サルヘキノ由 仰之 翌朝林弾正ヨリ白赤ノ木櫃ヲ
拜領ス

ツルベヲ 出スヘキト存ス茶見カサリニ致シタキ由ヲ申
シ上ク 若シカルマシキ 由 仰之 二三カ茶抄ヲ出スヘ
キナラハ皆具カサリ付タラハ然ルヘカラントノ 仰之

廿八日 参候

頃日朋友ノ者來リテ先日ノ二三カ茶ニ出セシツルヘハ
見事ノ由兼リ及ヌト申シキ夫ハ面目之近日ツルベニテ
御茶申スヘキト申タリ若此客ヲ得タラハ又先日ノ如キ
水指ノ餡リニテモ有マシ此度ハ水指ハ他ノ物ニツル
ベニ花ヲ生テハイカ、アルヘキヤト申シ上ク 仰ニ如

何アルヘキソ水指ノワルベヲト所望スル人ニ其ワルベ
ニ花ヲ生テハ何ノ詮ナシ本水指ナル物ヲ借テ花ヲ生タ
ル物ナレハ之加様ノ時ヨソ水指 ハル ノ一ツカサリナ
ルヘケト仰ラレ

一ツ 饒リト云テ先普通ニハセス一之釜ハ常カサリニテ
ノケモノ之今ノ世ニ香合ヲ一ツカサリニスル一其由ヲ
不知トカク掛物羽帚香合トカ先ハ三ツカサリノモノ也香
合ノ一ツカサリハ壺ノ時ハカリ之唐物ノ茶入ハカリコ
ソ益ニノセテモノセスモ ハカリ ツカサリニハスル一之其外ニ
一ツカサリト云テハ先セス一之ツルヘヲ一ツカサリニ
セハ初キニ花ヲ生テ後ハ何モナクツルヘヲ一ツ何モナ

クカサリ付ケハ然ルヘガラシ ハカリ 詠ハ茶入ヲ仕込ニノモ好
カラレカ

六月朔日 参候

昼ノ御相伴ノ後御前ニ萱草ト酢醬ハカリトアリ生テ見ルヘキ
ノ由 仰之畏テ生ク 仰ニ置花生ニ花ヲ生ル一ハ女シニ
テモ花生ヨリ葉モ卷モ下リテハ詮ナシ花生ヨリ下リテ
モ若シカラス物ハ抑一色之藤モイカト同シカドツレ
モナラズト三菩提院ノ仰ラレシ垂ル程ナラハ掛花活
然ルヘシ萱草中ノ如キモノ、茎短カニ生クルカ好若茎長
ニ生シハ葉ニテ茎ヲ包メハ又茎短カニ見ユ
花ハ生花ノ生タル形ヲ生ルカ好シト兼ル萱草ハ卷高ク葉

ヒキク^トヲ花ヲヒキクメモ若シカラス^トニヤト窺フ
若シカラス杜若トアヤノハ花カ似テ若アヤノノ杜若ニ
ナリ梅ノ桃ニナラシカト云為ニ花ニ高下ヲ吟味ス尤ナキモ
ノハ花ヲ下^{ヒキ}ク生ル^トモアリト仰ラレ
籠ノ花生ヲ御床ニ直ニ置カル 苍生ノ籠ニハ女シモ水
ヲセヌカ習^トトノ花生ニハ水ヲスル^ト
ツルベハ直ニ置^ト薄板ナシ 四角ナル花生ヲ四角ナル
薄板ハイカト^ト盃ヲ覆^{ウツセ}テ置^レヨシヲ申シ上ク盃ハ仰テ
置^ヘシ 桃^{ヒツ}底ノ苍生ナト盃ヲ仰テ置カ故質^トト仰テ
先日ノ道正庵カ茶ニ薄ヲ生タルコソ珍シケシ若スニキ
ヲ取合サハ菊ナトニハ若カルマシキヤト窺フ イカサ

マニモ若シカルマシキヤ昔ニ菩提院殿ノ川原ナテシ
コニ薄ヲ生ラシタルガ只一度見シマ、之撫子モ見^テノ
大輪ヲゴザ^トト六七輪モ子^シメニ薄ヲ入ラレシハ最
興アリテ面白ク覺ヘタリト仰ラレ

三日 参候

頃日茶友ノ来リケルニ申シハ 同客同亭ニテ 二日ツハ
續テ茶ヲノ見タキモノト如何ニモ面白カルヘシイザ
玉ヘ為テ見^シテ 然^シ行クニモ呼ニモ主モ客モクフウア
ルヘキ^トト申シキ 思召イカト伺フ 仰ニ何トア
ルヘキカ 二日ツケテセント思^フ前日ニ後日ノ^トツヒカ
ヘタリ遺シタリ為ル^トヲハ重クナリテ客ニ見付ラレ

一多カルヘシ不^{シカ}若シツペイカヘシニ 四日續ケテセハ主
ノ器モ容ノ器モ知ラルヘシト仰ラレ眼目ノ付ケ処ノ違
タルト如此九^ノ不可及モノ之独吟ノ連句ニテモ連歌
ナトスルハ先ハ器量ノトナレ^レ独吟ト云^フニテ前ヲ仕易
ル^トノナルゴトシ毎度ナカラ感心シ奉ル

釣瓶ノ水指ニハ蓋ノ上ニ^テ苺子トヤラン栗トヤラン時^ヲシ
習ニ致スト云^フ御流儀ニモアル^トニヤト伺フ イサシ
ラス夫ハ定テ蓋ヲ取ヨキ為ナルヘシ蓋ヲ取ニ習アリ片
一方ヲ^テ女シアゲメ^ノ引片一方ヲ^テ女シアケメニメサシ
コノハ蓋ノヒツ、ク^トナシ是習^トト仰ラレ

塩山椒ヲ膳ニ付ル^トハ殊外ニ^ハ分アル^ト之大秘藏ノ^トトス

茶湯ニテ塩山椒ヲ付ル^トハ普通ニ^ハベセヌ^ト之初メテ得
ル容ニハ必スル^ト之常修院殿毎度カタフナリシ^ト之
書院ノ振舞ニハ流物モ多ケ^レハ此ニテ塩梅ア^シク^レ凡^レ彼
ニテ好^トモアリ茶湯ハ只一汁ニ^ハ菜ノモノナ^レハ其塩
梅ノ初客ノ氣ニ不入^ハ食ヘキモノナ^レシ初客ノ塩梅ヲ不
知カ^レ為^レト仰ラレ

五日 恭候

昨日ノ茶湯ノ^トヲ申シ上クル次午ニ茶入ノ蓋ハ唐物蓋
ニテ^ハト申シ上リツ^レハ如何^ニ躰^ノナリ^トト御尋アリシ
ホトニ^ハ加^ハ様ノモノ^ト申シ上ク 御流儀ニハカラモ
ノ^トブ^タト^テ秋ヲ丸ノテアル^トハナキ^ト之イカヤウノナ

リニテモ茶入ノトリヤイニテ此形ノ茶入ニハ此蓋トス
唐物フタト云ハ唯一色ナラテハナキト云ハ形ニハ
アラス形ハ如何様ニテモウラハリノ処ヲ木地ニスルヲ
唐物蓋ト云是ハ秘藏ノト人ニ不可語ト云今ノ世ニハ
象牙ヲ惜ニテ連ウテハリハ見エ又処ユヘニ木地ニスル
ソレハ各別ノ唐物ノ蓋ハ木地ニスルカ本式トワレナセ
ナレハ盆ニヲク時ニ象牙様ニカワレリト云ハスホツドリト音
スルカ為ノ常修院殿殊外ニ大事ニナサレト云人ニ不可
語

九日 泰候

先日野村某ヲ茶ニ呼ト云シハ何時ノトツ兼テ仰アリシ

大海ヲ下サルベシト思召テ出シ置レシカ緒ツカリノ百
クハ御流儀ノ様ニモナサニ新ク成シ下サレノ由ニテ
拜領ス世ニアリカタキトニテ拜受シ且緒ノ結ヒヤウヲ
御傳授アソハス新古共ニ緒ツカリヲ下サレテ退出ス近
日此ニテ茶致スヘキノ由申シ上リ

野村某ヨリモライシ赤ノ丸ナツノニ 御前ノ袋ナシ下
サレシマ、是ヲ出サント致ス然ラハ薄茶ハ大海ニ入ル
ヘキカト存スルノ由ヲ兼テ申シ上リ 今日ノ仰ニ先尤
く左様ニ致メ跡ニテ新兵衛カ存シヨリヲ聞ヘシ頃日モ
思召スニハ常修院殿ニ談合セハ如何ト仰ラレヘシ其子
細ハナツメニ濃茶ヲ入レト云ハ古今東目トフ、キト

此二色ニカキリタルト之其外ノナツメニハ濃茶ハ入ラ
ススレハイカニモライシ物ナレハトテ右ニ巻ノ外九ナ
ツノニテハ成マシキモノ也常ノ茶入ニテ濃茗ヲ夕テ
跡ニテ進シタキ薄茶アリナト云テ右ノ丸束ヲ出サレハ
シ兼テ仰ラレシ束目ハ茶入ノ攪^{カキ}ナリ本ハ大海内海
ナトニ入テアリシヲ直ニ引家ニ入レヨリ車ヲコレリス
レハ茄子ハ輪肩衝此三色ノ引家カ束目トフ、キト也サ
ル故ニ此ニツナラテハ出サス其中ニモ茶入ノ根本ハ茄
子之茄子ノ引家カ束目ナル故也
内海ニテ茶ヲ致ス^ツモコレアル^トニヤト窺フ イカニ
モアル^トと此時ハカザリ付カチカフ 教會同客ナトニテ

カ又ハ夜會ナトニテ出ス^トモアリ初ヨリ桐ニカサレ^ト
モアリ菟角カサリツケニハ勝午ノ壁付ニカサレ今ノ入
ノ茶入カサルヤウニスコレカ本濃茶ノ入レモノニテナ
サニ茶入ノ常坐ヲハツメカサルト云モノ也今ノ人大方
茶入ヲ壁付ニカサレハ其由ナキ^トと

ルイサノ蓋ハカリハ必仰ニスル^ト常修院殿モ其由ヲシ
ラス傳授モ得サリシカ是ナト唐物ニテハアリナカラ唐
物ニテナキアシライナルヘシトハ思召セ凡花様ノ御傳
授モナシ右ノ通りニナサレ^ト也ト仰ラレシ也

常修院殿ノ茶通ヲ大切ニナサレシ^トヨクくノ^トと
公ト三菩提院様ノ御願ニテ臺子ノ茶ヲアツハス若

リシカ俄ニ御器物ニ調ハスモノアリトテ明日ノ今日ノト
ナリテ由ナク止ラシタリ跡ニテ聞ケハ奈良ヨリ常信院
か上リテ参リシ故ニ若シる連ラルヘキカト思召テノ
之トツ聞ヘシ御流儀ニテナキ人ノ前ニテハ一言モ仰ラ
シタルトナシトワ

十三日 叅候

一輪ヲ生ル其理ヲ知ラスハ故生テ面白シト存スル
希ナリ世間ニ踊アル花生ノ中ニ花ヲ生ルヲ一輪ノ様ニ
申セ凡悪クスシハ花カイツキタル様ニテ不面白ハハイ
カニト窺フ仰ニ惣ノ一輪ヲ生ルハ枝ヲ生ルト合点ス
ヘシ椿ナトノ花ノ枝ニ好所ヲ得テ咲タルハ希ナルモノ

也好き枝ヲ生テ其枝ニテホトヨキ処ニ花ヲ入ルレハ好シ
根シメナトニ花ヲ入ルレハマドノ中ニナルト自然ナリ
ト此春 御前ニテ 彼岸様ヲハレシニ 如様ノ 枝ニタテワ
ヘハアシ、枝ヲ用ユカヨシト仰ラル

十六日 叅候

三幅對ノ掛物ヲ一間床ニカクル寸法ノ通りニハカ
ニクキト多シ受ヲ掛ラスト申スニテハヤ但シ細キ物ハ
カリヲ掛ルトニハヤ 仰ニ一間床ニ三幅對ヲカクルト
ハ法ニナキト之間半以上ノ床ナラテハ掛又カ法ナリ
細キモノハ偶カハルモアルヘケレ凡面白カラスモノ也
ツレ故三幅對ノ掛物ニカキリテハリシホウハナキモノ
ニ皆ドウホウニ上下ニモハヤシケ類ハセスカ法之昔ヨ

リ皆純子金爛ノルイ之ヲレナセ故ナレハ大根三幅對ト云
モノハ小床ノ物ニアラス書院ノ道具之書院床ノ大ナル
処ニ細キモノヤサビタル表具ハ居ヌモノ也東山ノ名物
對ノモノ類ノ表具皆トシスキコラコノ上下也

十八日 叅候

近日存シ立テノ侍リテ旧宅ヲシツライ申サレト存ス拙
モト茶氣不存ヲリニ建タル坐敷ノ四疊半ヲ三疊ニ致シ
加様ト有増ヲ申上ク 仰ニツシハ仕様模様ノアルヘ
キトワトヨ 謾ニスベカラストテ翌日 御キツカラ御差
圖ヲ辨領ス御尤ナルトハ申ヌモ愚カ面目世ニアリカタ
キトニ覺エテ此冬ノ口切ヲ此座敷ニテ仕ラセ由ヲ申シ

上ク

廿一日 叅候

錦小路

抄

錦小路カ申上ラウニ色ハ限リナキモノニテ文字モツ
レクニアルヘキトニハアカキ一通リニテモ赤モ絳モ紅
モ顔モ丹モ赫モハハツレクノ差別アルヘキニテハ
仰ニ夫ハ先年荒井カ申上シ木下順菴カ説ニ色ノ文字ニ
ナリテハ詩人文人ノ言ハ何ノ益ニタス假令天ヲ倉天
氏云青天トモ云竹ヲ翠竹ト云青竹ト云処クニテ差フ何
トノ差フト云分ハナシ色ハカリハ言ヲ以テハ傳フヘカ
ラス是此色ト見スルヨリ外ナシ夫草木ノ色ハ古今ノ亦
ナキモノナレハ艸花ノ色ヨリ外ハ頼ニニ仕カタシト申

しき此各言之夫二へ先年道安ニ云付テ本草綱目ノ色字
ヲ抜出サセタリト仰ラレ

又申上ラレシハ 御前ナトニハ御慶ノ慶賀ノナリ、申
ス文字ハ定メテ遊ハサ又ニテアルヘトト 仰ニ先公ノ

御覺ナサシテハ終ニアソハサスト 拙其故ヲシラス如
何ト錦ヘ同當今ノ御諱ヲ慶仁ト申シ上ル故之ト

又仰ニ先年 御所望ニテ孝經ヲ昏テ上シニハ慶ノ字ヲ
除テ書マシキ様モナシ清朝ノ入ハ黒クスリテ置アレモ

狼藉之加様ノ時ハ盡ヲ一ツツ 添テ昏テ故質^質之虞世南
カ宋ノ諱ヲ避テ顯ノ字ノ連火ヲユツウツタリト云是故

質也ト仰ラレ ニノ名ハヒトツク不諱ト申セ氏近代天子
ノ御諱ニ仁ノ字ハ通シリスレハ上ノ一

ヲ御諱ト云ヘキト勿論ト 又臨文不諱ト云ニ 盡ヲ
ルヲ 志ナル御ト云
廿二月 参候

此度 東宮御殿ノ繪共ヲ御覧アリテ探山ハイツモヨリ
出来シタリ誰カ筆カ枚戸ニ西王母ヲ書タリ其顔ハ浮世

画ノ貞色容貌ニノ服ハ仙服タリ假令日本ノ美童ニ唐服
ヲ着セタルカ如シ羨クカ、ト思フアヤマリヨリ起レ

リト仰ラレ御前ニ如石抄侍リ御忬ナル御トト感ス如
石申上ラレシハ清水ノクサズリ引ハ如何様ニモ見テ之

五郎カカラ持シ午ノ中ニ柄ハナシ朝伊奈カ鶴ノ丸ノ素
袍ノヒクヲカマバズ昏タルト古今ノ評ニト申スト申上

ラレシカハ其評ナト大俗論ニアナノ繪ノ評ニモアルト

也サヤウノ評ハ画ニハナキ一之尤様ニ理屈ヲ立テ、書
ケハ初ヨリ畫ノ精神ハナシ生ウツシトテ花鳥ナトノ生夕
ル物ヲ前ニ置テ書ヲ生カキト云テウツシエニスルニハ曾テ
精神ノナキモノ之惣ノ繪ハ筆カ精神ヲ專トスルユヘ
ニ理屈ヲ跡カラツケテ評判スルハ画ヲシラス批評之下
仰ラレ

七月九日 泰候

今朝筑後守ヨリ到來セシ白蓮二葉莖青荷二葉ヲ捧ケタル
ヲ御床ニ唐金ノウスハタニ御生アツハス

此花生ケヤウノ一先達テ御傳授ヲ受クウスハタノ中へ
竹ヲ仕込ヲアツハス御心ノ一之卷荷ノ子ヂヤウヲ御口

授ヲ受ク此ナト二花ニ二葉ナラテナキ故ニ如此アハ
シタレトニ花ニ葉ハ嫌一之又ワロキモノ也是ナト後ヲ
今一葉モアラハ然ルヘカラシキ惣ノ花一ツナラハ葉二
ツ花ニツナラハ葉三ツカ好モノ也古ヨリ三花三葉四花
四葉ト云是之予毎ニ不審ニヲモヘリ花三ツモ葉四ツモ
入レハナラズ一アリ異ナリト思ヒシカ
サテハ三花ニ三葉四花ニ四葉
ト云一ナルモノヲト初テ覚悟六花六葉モ同シ一之水仙
ハカリハ四葉ヲ生ル一古今ノ通例ニテ女シモ不若之水
仙ノ四ツ葉トテ四ツカ水仙ノ生葉ノ形也四花ニ四葉モ
曾テカマハス一之是立花ニモ習ニス胡蝶シヤカ花ノカタハト
テ胡蝶花ニカキリテハ葉ヲ一方ユノ之出ス射チヤ杜若
ノ様ニスル一ハナキ一之是モ胡蝶ノ生花カフト東エサ

セハ尽ク東エサス西エハ一本モサ、ヌモノ故ニ立華ハ
凡テ如此道理ヲツノタルモノ也

昨日 仰ニ朝顔ヲ生ルニハ傳授アリ大秘藏ノトスス
々慢ニ不可語モロクノ花ヲ生ルニ水ヲセスト云テハ
キモノ也水ヲメ生ル朝顔ハカリハ女シモ水ヲスルテ
嫌フコ其分ケハ少シニテモアシガキニ持テ出タル水気
気ノ外ニ此方ヨリ水カシハ花ハワレタケ色カ衰スル
葉ハ必タレテ形ヲ損ス先ハ菩^{ツホ}蕾^ミヲ霄ニ生テ少シモ水ヲ
セスカ習ニ是ハ殊外ニ花ニ秘^ミ夏ニスルナレハフト御
口ガスベリテ御咄ナサレタル由御物語也

古ヘ 後西院ノ御時古筆ノ手鑑ノハヤリタルナレハ
ナ枚手鑑ヲ御仕立ナサルニ冬良ノ短尺カ絶テナキモノ
也冬良ハ一條家ノ一代ニテ 禅宗兼良ノ子ニマリツウナ
モノナルニ歌ヤナラサリシヤ殊外ニ稀ナルモノ也一條
家代々ヲ押サレテ此一代ノ缺ルヲ気毒ニ思召テ方々ト
尋ラレシカニ出サリシカ或時古筆ノ了珉カ方エ短尺ヲ
枚十枚持来リシ中ニ冬良ナラント思フヲ所望シタリケ
レハ何人ノ筆跡ニヤト先ヨリ尋シニワサト色ヲサトラ
レシカ久ニ良トアレハ定テ町人フセイト歌ナラントテ
取テ上エ捧テ過分ノ禄ヲ給リケルトナレリ珉カ此ハ夕
ラキ故茶モ上チナリシ冬良ノ二字ヲ卒尔ニ久ニ良トハ
賢クモ給シタリトテ大笑ナサル吉田ノ兼好カ短尺モ甚

マシナルモノ也大猷院ノ時ニ天下ノ午鑑ヲ集ラシシカ
兼好ヲ四天ト云ヘル頃阿ナニカモ揃テ兼好ノナキヲ
残念ニ思テ方ト尋ラシシカ高野ニアリト聞召テ召サ
シシカ案ノコトク十枚トヤラシ拵テ持泰シ何テモアシ
過分ノ禄ヲ并セト思ヒシカ不残カエサシタリ午鑑ニ
ハ和歌四天ノ所ニ兼好カ場ヲアケテ在高野ト記シヲク
ヘシ凡ソ天下ノ内ニアルモノハ皆公方家ノ御所持ナリ
トノ玉シ由ヲ聞クイカサマニモ大智ト云ヘシト仰ラル

十二日

参候

錦小路

長嘯子ハ歴々ノ者ト見エタリ中井定格カ咄ル昔（？）日

ノ局ノ上浴アリシ時板倉周防守ノ誘引ニテ祇園（？）水へ
参ラシシカ定格カ十三ノ歳ニテ駕籠ニテ供（？）タリシカ
瀧ノ下ノ腰掛ニ並居テ飛泉ヲ詠ラシヲ熊野北丘ノ瀧
ニテ脚ヲ洗アルカ春日局ヲ見テ如何ニヤ久シク御目ニカ
、ウ又トヨ御上リト兼リケレ厄今熊野ヨリ上リケル故
未夕泰ルトモ侍ヘラズト申セシニサシハトヨ此厄ハ由
アリテ懇ニスル者之京ニテハ建仁寺辺ニ披等カ居住ノ
アリケル由ツ子ニハ〇目（？）ヲカケテ玉ハシカシ彼ヲ見テ思
付タルトノ侍リ長嘯様ノオハシマス靈山ハ程近カ能ハ
ケレハ参リテ申サノトテ中井ヲ連テ泰ラシ周防守ハ今
日ハ東門主ノ振舞ニテ祇園林ニテ待請申ス由ナレハ御

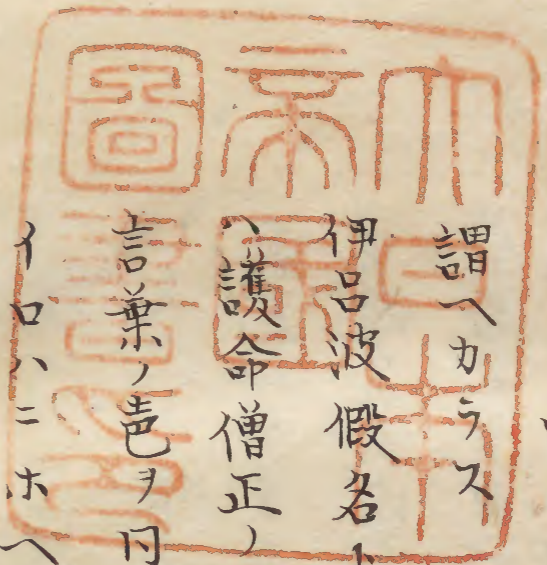
先へ参ラントテ立別ル扱長嘯子へ忝ラレシニ長嘯ハ紙
子ニテ縁側ニ立出テヨクコソ忝ラレタリ爰ヨリモ二階
コソ羨景ナレ上リ玉へ茶ヲモ振舞へケレ其^{ツナ}方ノ茶コ
ソ上品ナラメ茶弁當シモ二階へ奉テ共ニ興セラレシ
カ周防守ヨリ度々ノ使ニテ東門主ノ待兼玉フニ早ク忝
ラセ玉へト申セシホトニ立カヘラレケルカソノ躰タ、
春日局カ為ニハ主人ト見ユサテ祇園ニ忝ラレシカハ林
ニノコラス置^ウシキテ杉折ノ投重ニテ饗應ノ夥シキ
エハコ方ナレト錦小路ノ申セシカハ上ニモ尤コソハ
聞ツレト仰ラレ

八月六日夕参候

例年
如此

イツワヤ御咄アツバセシ古キ假名ノ書一巻ニ文字ヲ付
テクシヨトテ所望セラレシ程ニ披テ御覧アルニ假名ハ
假名文字ニハ讀ハヨムシ凡通シ難シサレ凡新キ物ナラ
ハ讀マシケレ凡サスカハ古キ物ホトアリテソロクヨメ
ハ文字ノ格ニテ文字カツクホトニソロリくと頃日マテ
通篇ツケラセタリイデ奥書ヲセント思テ書カリシ
カ假名文字ト云フヲ漢字ニカント思テ案スレ凡不出
廣瀬某ト申スハ國字トカケカシトイヘ凡國字トハカ
レ^レ真名ニモセヨ假名ニモセヨ文字ハ文字也和國ニ
カキリタル文字ニ非ス假名ト云文字モ万葉書ニテアナ
カチ極リタル文字ニ非ス加奈ト書テモ同キト云自休

假名ト云文字モ義理ハナシ名ヲ假ルノ義ニアラス也
假トハ云ヘシ名ヲ假トハ云ヘカラス伊呂波假名モ和字
ニ非スヤノヤ字ナレハ是以テ漢字之國字ニ非ス國字ト



謂ヘカラス
伊呂波假名ト云モノハ空海ニテ候ヤ 仰ニイロハカナ
ハ護命僧正ノ作ニテ空海ニハ非ス護命僧正日本ノ人ノ
言葉ノ色ヲ曰シ文字ノサシアハスヤウニ歌ニワクリテ
イロハニホヘトヤリヌルヲト為ラレシ斤假名ハ一
向旧キモノニテ是ハ全クイロハノ為ニ作りタルモ
ノニアラス是ハ文字ノ符合之平假名ノイロハアルカラ
イロハニシタルモノ也ト仰ラレ

